

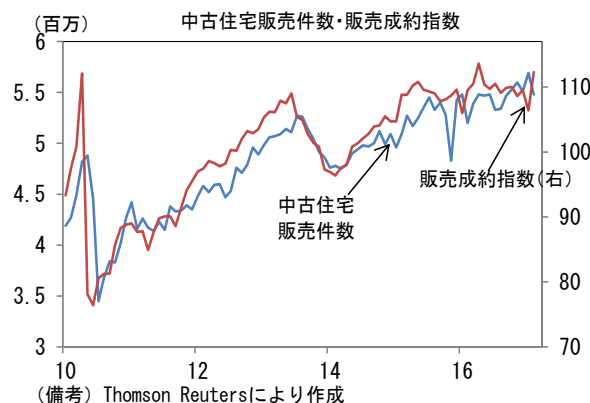
短観は改善するが、3月データは不安 ～景況感改善のピークは近い印象～

2017年3月30日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

【海外経済指標他】

- ・2月中古住宅販売成約指数は前月比+5.5%と市場予想（+2.5%）を大幅に上回り2ヶ月ぶりに反発。過去数ヶ月間、一連の住宅関連指標が好調な領域で推移するなかで中古住宅販売の弱さが目立っていたが、今回の結果を受けてそうした歪みが解消した格好となる。この指標が実際の中古住宅販売件数に1-2ヶ月の先行性を有することに鑑みると3-4月にかけて中古住宅販売件数が回復する可能性が高い。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は、NYダウは反落もS&P500は続伸。米指標は好調も特段の買い材料に乏しく売り買い交錯。他方、欧州株は堅調。予定どおりEU離脱通告をした英国も株価堅調。WTI原油は49.51ドル（+1.14ドル）で引け。米石油在庫統計で原油在庫の増加幅が市場予想を下回ったことに加え、ガソリン在庫が大幅に減少したことで需給懸念が後退。
- ・前日のG10通貨は欧州通貨（DKK、EUR、SEK、CHF、GBP）が軟調だった反面、AUD、CAD、NOKといった資源国通貨が堅調。他方、JPYとUSDの強さは中位程度でUSD/JPYは111を挟みナローレンジで一進一退。
- ・前日の米10年金利は2.418%（▲4.1bp）で引け。前日の金利上昇から一転、欧州債ラリーに追随する格好で金利低下。ローゼングレン・ボストン連銀総裁が年4回の利上げの可能性を排除しなかったほか、ウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁、エバンズ・シカゴ連銀総裁がともに3回の利上げを確認する発言をしたがさほど材料視されなかった。欧州債市場（10年）は総じて堅調。ドイツ（0.344%、▲4.4bp）、フランス（0.932%、▲2.9bp）、イタリア（2.137%、▲2.4bp）、スペイン（1.643%、▲3.7bp）が揃って金利低下。

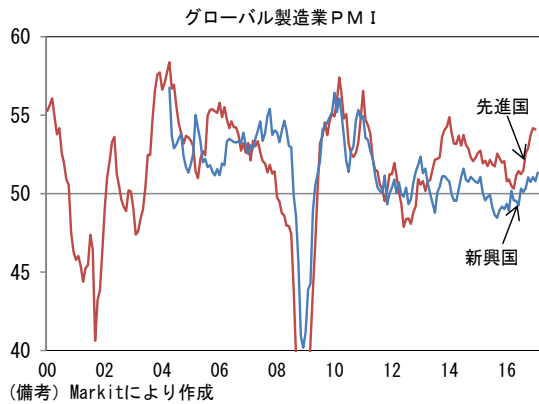
【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・日本株は新規の材料に乏しいなか、前日終値付近でもみ合い（9:30）。

< # 3月日銀短観は改善 # 3月データは不安 >

- ・4月3日発表の日銀短観（3月調査）では製造業の業況回復が確認される見込み。大企業製造業の業況判断DIのコンセンサスは+14と12月調査対比で4ptの改善が見込まれている。海外経済が先進国・新興国

問わず回復するなか、日本は輸出が顕著に増加して2008年3月のピーク水準に比肩するなど、その恩恵を受けたことが明らかになっている。グローバル製造業PMIや日本の実質輸出を見る限り、製造業企業の業況は好転している可能性が高い。



- 一方、やや気掛かりなのは3月データ。経済産業省発表の製造工業生産予測指数によると生産は2月に+3.5%増加した後、3月は▲5.0%と大幅な減産計画が示されている。速報性に優れたPMIが3月に改善したことを踏まえると、3月の生産予測指数（←経産省）の弱さは歪みによって誇張されている可能性が高いものの、それでも鉱工業生産統計で示される数値は減産となる可能性が濃厚だ。また、それを裏付けるように製造業PMIの生産高予想指数が3月に急落していることも懸念される。
- 31日発表の鉱工業生産では3-4月の生産計画に注目。ここで示される数値が弱ければ、昨年秋口頃から鮮明となった循環的な回復が途切れることを投資家が懸念する可能性が高まる。[29日付当レポート](#)では米国の製造業の景況感についてそのピークが近いことを示したが、日本もそれと似たような状況にあるように思える。潮目の変化が近い印象だ。

